

2024年10月20日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第67巻第30号(通算3412号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

小さくされている人を
大切に^{たいせつ}する^{きょうかい}教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に^{たいせつ}する神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマの人々への手紙5:5)

しゅうかくかんしゃれいはい

収獲感謝礼拝

せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい
(聖霊降臨節 第23主日礼拝)

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう
前奏(黙祷)

ちよさくけんしやうめつ
AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば
招きの詞

しへん
詩編

へん せつ
34編 19節

さんびか
賛美歌

きやうどうたいさんびかしやう てん しゅ
『アイオナ共同体賛美歌集』「天において主をたたえよ」

ほうけん かんしゃ いの
奉献と感謝のお祈り

せいしよ
聖書

しよ
エレミヤ書

しやう せつ
29章 1,4-14節

さんびか
賛美歌

ばん しゅ めぐ きやうだんしゅつばんきよく
21-388番「主の恵み ゆたかなり」(©教団出版局)

メッセージ「命によりそう」

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

さんびか
賛美歌

ばん か い しゅ ちよさくけんしやうめつ
21-387番「刈り入れの主を」(©著作権消滅)

しゅ いの
主の祈り

ばん てん ちち きやうだんさんびかかいていいんかい
62番「天にいます わたしたちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物(*)

は けん 遣
派遣

ばん かみ めぐ う せつ
21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅくふく
祝福

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

こうそう
後奏

ばん きやうだんさんびかいいんかい
アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

ほうこく
報告

ページ さんしやう
(4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 34 編 19 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

主は心の打ち砕かれた者に寄り添い／霊の砕かれた者を救い出す。

聖書 エレミヤ書 29 章 1, 4-14 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹次に記すのは、ネブカドネツアルがエルサレムからバビロンへ捕囚として移した、生き残っている長老たち、祭司たち、預言者たち、およびすべての民に、預言者エレミヤがエルサレムから書き送った手紙の言葉である。

⁴「イスラエルの神、万軍の主は、私がエルサレムからバビロンへ捕囚として送ったすべての者に、こう言われる。⁵家を建てて住み、果樹園を造って、その実を食べなさい。⁶妻をめとって息子、娘をもうけ、息子には妻を迎え、娘は嫁がせて、息子、娘を産ませるように。そこで増えよ。減ってはならない。⁷私が、あなたがたを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそ、あなたがたにも平安があるのだから。

⁸イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたのうちにいる預言者や占い師たちにだまされてはならない。あなたがた ^aのために夢を見る夢占い師に耳を傾けてはならない。⁹彼らは、私の名を使ってあなたがたに偽りの預言をしているからである。私は彼らを遣わしてはいない——主の仰せ。

¹⁰主はこう言われる。バビロンに七十年の時が満ちたらすぐに、私はあなたがたを顧みる。あなたがたをこの場所に帰らせるという私の恵みの約束を果たす。¹¹あなたがたのために立てた計画は、私がよく知っている——主の仰せ。それはあなたがたに将来と希望を与える平和の計画であつて、災いの計画ではない。¹²あなたがたが私を呼び、来て私に祈るならば、私は聞く。¹³私を捜し求めるならば見いだし、心を尽くして私を尋ね求めるならば、¹⁴私は見いだされる——主の仰せ。私はあなたがたの ^b繁栄を回復する。あなたがたをあらゆる国々に、またあらゆる場所に追いやつたが、そこからあなたがたを集める——主の仰せ。私はあなたがたが捕囚となった元の場所へあなたがたを帰らせる。

¹⁵あなたがたは、『主が我々のために、バビロンでも預言者を立ててくださった』と言っている。¹⁶そこで、ダビデの王座に着いている王と、この都に住むすべての民、捕囚となつてあなたがたと共に出て行かなかつた同胞に対して、主はこう言われる。¹⁷万軍の主はこう言われる。私は彼らに剣、飢饉、疫病を送り、彼らを悪くて食べられない、腐ったいちじくのようにする。¹⁸私は、剣、飢饉、疫病によって、彼らを追い、地のすべての王国のおののきの的とし、私が追いやる先のすべての国で、呪い、恐怖、^{あざけ}嘲り、そしりとする。¹⁹彼らが私の言葉に聞き従わなかつたからである——主の仰せ。私は、私の僕である預言者たちを繰り返し遣わしたが、^c彼らは聞こうとしなかつた——主の仰せ。

(脚注 a：直訳「が夢を見させている」、b：別訳「捕らわれ人を帰らせる」、c：シリア語訳による。ヘブライ語底本では「あなたは」)

《先週のメッセージより》2024年10月13日

「立場主義を越えて生きる」より

牛田匡牧師

聖書 士師記 11章 29-40節

今回のお話は、「もし戦いに勝利して、無事に帰還できれば、最初に迎えに出て来た者を、神に犠牲（いけにえ）として献げる」（31）という誓願を立てた士師エフタが、戦勝して帰還した後、彼を出迎えた一人娘を、誓願通りに犠牲にしたというお話でした。この物語から、私たちはどのようなメッセージを受け取れるでしょうか。例えば、「エフタもその娘も、親子の絆、愛情よりも、神との約束を優先させたから立派な信仰だ」という解釈や、「そもそも人身犠牲は異教的な習わしで律法で禁じられていたので、その誓願を耳にした彼女が、父親にそのような罪を繰り返させないために、自らの命を差し出した」という解釈もあります。しかし私は、このお話は「信仰的な美談」などではなく、「繰り返してはならない悲劇」として読むべきではないかと思えます。

聖書に限らず、古代社会では、ほとんどの女性は男性の所有物として扱われました。そしてエフタも、娘自身も、それを当然と思い込まされていたために、娘が犠牲となることに同意できたのでしょう。しかし、そのような「男性中心・お家中心主義」「立場主義」が、聖書全体を貫く命の神のメッセージなのか、というと、もちろんそうではありません。聖書が伝えているメッセージは、誰かが犠牲になることではなく、全ての命が生き活きと生きられるように、解放されることです。この士師の時代の後も、動物を犠牲として献げる祭儀は続けられましたが、次第に形骸化していきました。そして新約聖書では、十字架に架けられて殺されたイエス様自身が、神に献げられた最大にして「最後の犠牲」となりました。イエス様が十字架での死から三日後に引き起こされたということは、言い換えれば、もう「犠牲を繰り返す必要はない」ということです。

現代の日本でも「お家中心主義」「立場主義」が根強く残っています。自分を犠牲にして、国家や社会、会社や組織に尽くすことが、称賛され、美德とされて来ました。しかし、その思い込みは正しかったのでしょうか。暴力は新たな暴力を、犠牲は新たな犠牲を生みます。私たちは誰かを犠牲にしたり、自身が何かの犠牲になったりすることを、許してはなりません。知らない間に私たちを真綿でくるむようにして、息苦しくさせているような立場主義を乗り越えて、解放されて生きられるように、今日も私たちは神様と共にあって導かれて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 10月13日

礼拝出席 大人3名 献金 大人3,000円 中継視聴者数8回 感謝

◎次週 2024年10月27日(日) 聖霊降臨節 第24主日礼拝

招きの詞 詩編 8編 4-5節

聖書 マタイによる福音書 10章 28-31節

メッセージ 「髪の毛の数まで知る」水谷憲牧師

賛美歌 21-225番(©P.D.)、21-425番(©JASRAC)、21-530番(©編集委)

礼拝の中で、10月にお生まれになった方々の祝福式を行います。

◎お知らせ

- ・本日の「収穫感謝礼拝」で献げられました収穫物は、釜ヶ崎支援のために、いこい食堂に献品致します。なお、礼拝後には併せて、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」も行い、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。

- ・10月28日(月)15時10分~16時50分にかけて、西宮市にある関西学院会館レセプションホールにて、関西学院大学キリスト教と文化研究センター主催講演会が開催されます。テーマは、「平和教育のための戦争の《追体験》学習~《心に刻み付けるアウシュヴィッツ》のボランティア活動を通して~」で、講師は山田正行さん(大阪教育大学名誉教授)です。参加費は無料です。お申し込みは、10月23日(水)までにホームページの申し込みフォームから、もしくはお電話にてお申込みください。

<https://forms.office.com/r/7qrLhrXcgn>



関西学院大学 キリスト教と文化研究センター(RCC)主催講演会
キリスト教主義教育の可能性と実践プロジェクト

平和教育のための戦争の《追体験》学習

—《心に刻み伝えるアウシュヴィッツ》のボランティア活動を通して—

戦争体験はならず、その体験学習を想定すべきではないが、しかし、各種資料・教材により《追体験》学習は可能であり、戦争の現実の理解に立脚した健全な平和教育のためには、時にそれが理想論や空論にならぬためには、そうすべきである。これをポーランドの「子どもの目に映った戦争」原画展、「心に刻み伝えるアウシュヴィッツ」巡回展、常設館の建設におけるボランティア活動を通して体験する。

2024年10月28日(月) 15:10-16:50
関西学院会館 レセプションホール
(西宮市上ヶ原一丁目1-155)

要申込 無料

講師 山田 正行氏
群馬県桐生市出身。教育学博士(東洋大学)、大阪教育大学名誉教授、高野山大学特任教授。ポーランド共和国博物館電子学助産受任。アウシュヴィッツ平和博物館理事長。著書に「希望への扉~心に刻み伝えるアウシュヴィッツ」、「平和教育の思想と実践」、「わたつみのこえ」に耳を澄ます」などがある。

申し込み方法 10月23日(水)までにホームページの申込フォームもしくはお電話にてお申込みください。

お問い合わせ 関西学院大学 キリスト教と文化研究センター(RCC)
TEL.0798-54-6019

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
10/27	水谷憲牧師	誕生者祝福式
11/3	水谷憲牧師	(愛児祝福月間) 召天者記念礼拝、ユーカリスト 13時半~14時 王寺墓地墓前礼拝(牛田牧師) 15時~第二好意の庭・永眠者記念礼拝(牛田牧師)
11/10	水谷憲牧師	(愛児祝福月間)(障がい者週間) 教会を考える会 15時~ 大阪教区王寺墓地 墓前礼拝(池田牧師・八尾教会)
11/17	牛田匡牧師	(愛児祝福月間) 15時~ 大阪教区服部墓地 墓前礼拝(宮岡牧師・北千里教会)